

## 第 11 回きたひろしま都市型観光推進協議会 議事

- 1 日時 平成 29 年 2 月 14 日（火） 18 時 30 分から 20 時 30 分
- 2 場所 北広島市役所第 3 庁舎 3 階会議室
- 3 出席状況

NO	氏 名	職 業 等	出欠
1	上 原 康 雄	北広島市観光協会会長	欠
2	山 崎 悦 子	北広島商工会会員（行政書士山崎法務事務所）	欠
3	(副座長)千 葉 隆 一	札幌ゴルフ倶楽部 支配人	出
4	田 村 直 人	札幌北広島クラッセホテル総支配人	出
5	(座長)川 口 満 久	ホクレン農業協同組合連合会統括マネジャー	出
6	中 村 哲	三井アウトレットパーク札幌北広島所長	出
7	三 浦 麻 衣	市民（会社員）	出
8	善 甫 啓 太	市民（会社員）	欠
9	山 田 基	北広島市経済部観光振興課長	出

### きたひろしま都市型観光推進協議会事務局

所 属	役 職	氏 名
経済部観光振興課	主 査	青 木 潤
	主 事	高 木 梢
	主 事	千 葉 啓

### 傍聴者

人 数
0 人

## 4 議事録

### 1. 開会

事務局) ただいまから第 11 回きたひろしま都市型観光推進協議会を始めさせていただきます。

まず本日は委員の過半数が出席されておりますことから、会議は成立していることを報告させていただきます。

### 2. 議事

座長) 今回も皆さまの色々な経験・知識からご意見をいただければと思います。宜しくお願い致します。それでは事務局からお願い致します。

事務局) それでは事務局の方から本日の議事の内容について説明致します。一つ目は「観光資源を活用した取り組みについて」でございます。皆さまにお配りしている「都市型観光の方向性」という資料をご覧ください。この会議はこの資料に基づき議論を重ねていくということで、意見交換をさせていただいているところですが、その中の「C:北広時間で御もてなし!」と「D:北広島を知る観光!」におきまして、具体的な取り組みがまだ議論されていないということで、本日はこのあたりについて意見交換をさせていただければと思います。

さて、北広島商工会の方の「赤毛米」を使った北広島商工会の取り組みということで、皆さまのテーブルの上にも食品の見本をご用意させていただいたところです。こういったスイーツですとか、クッキー、パンが開発されてきているということで、本日は商工会の工藤課長にもお越しいただいており、皆さまにご説明していただきたいと思っております。

次に二つ目はインバウンドの観光客の方の現状ですとか問題点をお話いただき、意見交換をさせていただければと思います。

では、一つ目の観光資源を活用した取り組みについて、工藤課長の方からご説明をお願い致します。

商工会工藤課長) 北広島商工会の工藤と申します。本日は事務局の方からお話をいただきまして、商工会の取り組みについて PR できるチャンスでもあると思ひまして、出席させていただきました。

さて、北広島商工会の中には「きたひろしま開拓プロジェクト委員会」という組織がありまして、平成 24 年に、商工業の発展をどうするか、地域活性化のよって商工業の経営安定に寄与できないか、北広島の財産である中山久蔵翁と赤毛米を資源として取り組みできないかと、発足したところです。

一つは、視覚的に「とっつきやすい」ということで、赤毛米をキャラクターにした取り組みをしております。それが「きたひろまいピー」で、大分認知度も上がってきたかなと思っているところです。グッズ作成、販売、あとは出演、デザインの貸し出しによる PR をやっております。

当初は、商工業者の経営安定ですので、民間の事業者にグッズを作っていただくなど、まいピーを使って商売していただければ、という目的でしたが、現状、グッズの作成をしているのは 2 社にとどまっております、商工会でグッズを作り販売しているところがございます。やがてこれを民間事業者に移行できるようにと考えております。

ゆるキャラグランプリにも出場しておりまして、昨年のグランプリでは北海道 1 位をとることができました。

また、LINE のスタンプを販売したり、主に行政において、デザインを使って広告物を作成していただいております。貸し出しの実績は昨年だけで 30 件ほど、出演に関しては、30~40 件、日数に換算するとそれ以上の実績があります。

一方、「赤毛米そのもの」を素材とした取り組みも行っておりまして、本日テーブルにも並んでおりますが、商品開発をしております。

平成 26 年に生産者の方をお願いをして、ある程度まとまった量の赤毛米を作っていただき、それによる商品開発をしてきました。昔の明治のお米ですのでそのまま食べても厳しいところもあり、主に米粉にして、商工会から事業者提供しています。今は 3 つの事業所に製造していただいておりますが、年々、アイテム数も増えております。

また商工会自体も、甘酒ですとか、そういった商品開発の可能性を研究しています。

さて、米粉にもいろいろと問題がありまして、例えばパンでいうと翌日、翌々日になると食感が大きく違ってきたりですとか、課題が多いところなんです。昨年の秋に、米粉にせず米そのものを使ったパンの開発も行われております。そうやって事業者の方もどんどん改良を重ねて商品開発をしているところなんです。

こういう取り組みを続けることで、様々な広告物に取り上げられたり、新たなお土産ができたり、地域活性化の一助となるのではないかと考え、商工会が事業者と連携して取り組みを行っているところでございます。

本日はその商品が試食できるということですので、皆さまにもいろいろとご意見をいただければ幸いです。

簡単ではございますが以上です。

事務局) ありがとうございます。資料に、本日テーブルに並んでいる赤毛米を使った商品の一覧が掲載されておりまして、その中から本日は何点かピックアップしてお持ちしております。

具体的には「きたひろまいピーロール」、「きたひろクッキー」、「まいピーの赤」、「赤毛米豆乳ブレッド」、「赤毛米豆乳黒豆あんパン」、「発芽玄米パン」、「わつつ(ガレット)」、こちらの方を本日は用意しておりますので、どうぞご試食いただき、感想やご意見をお聞かせいただければと思っておりますので宜しくお願いします。

商工会工藤課長) 試食されている最中ですが補足させていただきます。

この「発芽玄米パン」ですが、これは赤毛米の玄米を発芽させたもので、その酵母を作るのと、それとは別に発芽させ炊いたものをパンの中に練りこんでいます。

それで店主の方が言われていたのは、普通の玄米は発芽させるのに 3 日かかっていたところ、赤毛米は何故か 1 日で発芽するとのことなんです。ここに生命力と言いますか、北海道普及米 1 号になった何かがあるのかなと思っております。

#### ○委員からの意見

- 赤毛米は米そのもので売り出すのは難しいということでしたが、雑穀米のように取り扱うことはどうでしょうか。
- 赤毛米の PR を紙だけでなく、商品開発によって焼き菓子等で PR できるようになったのは大きい

ことだと考えます。

- 赤毛米の保存会という方たちがいらっしやいまして、余計な DNA が入っていない当時のままの赤毛米を保存しようと取り組んでいらっしやる団体さんなのですが、なかなか難しいことも多いようです。赤毛米の生産には機械が使えないそうで、そのため手で刈るような形になるわけですから、作る量も限られるようです。

事務局) 刈り入れが大変だというお話がありましたが、その刈り入れを体験して、その後こういうお菓子を食べてもらうというコンテンツも面白いかなと思います。実際は、農家さんの負担を考えると難しいのかもしれませんが、そういうことができれば北広島だけの観光体験となるのではないかと思います。

商工会工藤課長) 少し話は変わるのですが、この赤毛米はあまりにも古すぎて、現行の法律に銘柄登録がなされていないのです。そのため、現状で表記できるのは「その他」しかない。これに商工会としましては苦慮している。新しく登録するとなると、それはそれでものすごく大変なことになります。

生産量は限られていますので、その中でどんなことができるのか検討することと、あとは名前で売っていくしかないのです。

#### ○委員からの意見

- ネット通販ですとか、多く、広くの方に知ってもらえるように生産体制が追いついてくると良いですね。
- 観光客の方とお話しさせていただくと、北海道の魅力は観光資源で、食と自然と言われていました。北海道の美味しいものであれば、金額が多少高くても観光客の方は購入されます。ただ、生産が追いついてこないと、多くの人手に渡りませんよね。
- 明治のお米というのはやはり興味を引きますよね。「明治米」というフレーズはいかがでしょう。
- 生産数が限られているのであれば、商品発売の前のタイミングで、三井アウトレットパークでコーナーを設けて希少性をアピールするというのはどうでしょうか。このコーナーが年に 1 回とか半年に 1 回とか、恒例にしていければお客様に浸透し、需要が伸びれば生産のベースも変わってくると思います。
- 価格も検討する余地があると思われます。農家さんが苦勞しているのであれば、相応の価格帯で販売しなければ絶対に続きません。
- 「まいピーの赤」は年に 2 回、それぞれ 200 本ずつ生産されるとのことですが、回数を増やし、本数を均すというのも手かもしれません。
- 「まいピーの赤」は現在 1 本 500 ミリリットルとのことですが、それよりも小さいサイズで販売するなど、戦略的な検討も必要だと思われます。

事務局) それでは PR や販売方法など、工藤課長を通じて開拓プロジェクト様とも情報交換をしながら、こちらでお手伝いできることはお手伝いさせていただいて、この赤毛米について協力して取り組んでいきましょう。

それでは 2 つ目の話題としまして、「北広島時間で御もてなし！」とありますが、インバウンドの現

状について意見交換をさせていただければと思います。

#### ○委員からの意見

- 買い物「だけ」をしに北海道に来られる方は限られていると思います。タイやマレーシアの方たちがとにかく雪を見に来る傾向があるように。あとは食でいうとカニ、夏場であればとうきびが有名です。
- インバウンド向けに準備をしていることとしましては、国ごとに祝日や休日、趣味や嗜好、求めているものが違うため、それを知ろうということで、まずは休日や祝日をカレンダーにしました。気持ち良く買い物ができるような環境も整えなくてはなりませんから、連休に合わせてその国の言葉が話せるスタッフを配置するなど、国ごとにきめの細かいサービスを提供したいと考えています。
- 以前は団体で来られていたのですが、最近は個人旅行で来られていて、自分たちでしっかりと情報を調べてきております。こちら側としては SNS 等でしっかりと発信し、こちらから話題を作っていかなければなりません。先ほどの赤毛米も生産体制が追いつけば、世界に向けて発信できると思います。
- 最近、外国人は有名な観光スポットだけではなくて、すごくマニアックな、日本人でも行かないようなところに足を向けています。北広島も景色が綺麗なところなどがたくさんあるので、原石がたくさん転がっていると思っております。

事務局) ありがとうございます。話は少し変わりますが、先日、三井アウトレットパークに行きたいという台湾の方が北広島駅で迷っているようでした。受け入れ態勢についてはどう思われますか。

#### ○委員からの意見

- 距離感がわからないようですね。「北広島」という、駅と同じ名前なので駅の近くにあるものだと思ってしまうようですね。だから札幌というよりも、千歳からきて北広島で降りて迷っている方が多いようです。
- もう駅に外国語表記で案内を作ってしまうのもいいのではないのでしょうか。
- 宿泊の急なキャンセルの問題もあります。FIT が多くなったので、予約して個人向けに転売をしている方がいるようです。団体のエージェントさんであれば断ればいいのですが、ネットサイトなどを通して例えば 20 部屋予約し、それを 3 日前にキャンセルされてしまうというようなイメージです。対策としては、まとまった数を予約した方と電話で直接やりとりをすとか、サイト様に問い合わせるとか、今のところそういった抑制しかできないのです。
- 受け入れ体制につきましては、札幌の商工会議所の「キャリアブリッジプログラム」というものがありまして、北大の学生さんで、この先も日本で働きたい意欲のある方を受け入れている取り組みがあるのですが、そこを利用させていただいております。ただ、外国語が話せるだけでなく、案内もできなければなりません。そういった方を探すのは本当に大変です。時間がない中で、スムーズにご案内できなければ逆にトラブルになってしまいますから。

事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。市としましても、駅のナビゲーションは課題であると認識しておりまして、今後改善は必要であると考えております。

また FIT も増えているということで、今後そういった方にリピーターになっていただかないといけないのだと再認識しました。

市内へのお食事の関係はいかがでしょうか。例えばマップといったものはやはり重要なのでしょうか。そういったものによって市内の飲食店に足を運ぶ可能性は考えられるのでしょうか。例えばタクシーにそういったマップを差しておくという取り組みですね。市としましても調査等はまだ実施していないのでどれくらい必要性が高いのかはわからないところなのですが。

#### ○委員からの意見

- 情報を出すことは良いことですよね。ただ、それがあつたから来るかどうかどうかというのは別の問題だと思います。お客様はやはり買い物など次の目的地を目指すので、そのマップだけで周遊とはならないかもしれません。もちろん宿泊された方はホテルだけで食事をとられるかたばかりではないので、そういったものがあればご案内はしやすいですし、親切だとは思いますが。
- 外国語表記があるということは、自分たちが海外に行った時のことを考えても、それだけで安心すると思います。そういうことって大切だなと、そのまちのおもてなしの一つだと思いますから。

事務局) ありがとうございます。市としましても、駅前等で調査し、そのデータを活用することでより効果的な取り組みができると考えております。

また、皆さまとお話しさせていただき、改めて赤毛米のポテンシャルが高いことがわかりました。これについてはこの先も開拓プロジェクトでも議論されると思いますので、都度皆さまとも情報共有させていたきながら、PR 等でご協力いただきつつ、取り組んでいければと考えています。

座長) あとは他になにかありませんか。なければこれで閉会とさせていただきます。

### 3. 閉会